

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月26日(土)

《子ども達に何をあげますか》

今日は、土曜学校のお泊まり会があるので、子どもたちがたくさんミサに与っていますね。そして日ごろから熱心に信仰の生活をしているお母さん達、お父さん達も一緒に与っていますね。今日は、子ども達のお父さん、お母さん達に話します。そしてお願いがあるのですが、私から聞いた話を母国語を使うお母さん達、お父さん達に伝えてください。

質問をします。皆さんは子どもを愛していますか？ どのくらい愛していますか？(何人かの親たちが答える)

皆さんが答えたように、命をかけて、量れないくらい、限りなく愛していますね。では、お母さん、お父さん達は、命をかけて、量れないくらい、限りなく愛している子ども達に、今まで何をあげてきましたか？ たくさんあげたのでしょうか、その中で一番大きいものは何ですか？ 一番大きいもの、大切なものとして、命をあげましたね。一番大切なものは、人によって違う答えになると思います。しかし、一番大切なものとして、教えてあげてほしいものがあります。それは、お父さん、お母さんがいなくても、子どもたちが幸せに生きられるように準備をさせてあげてほしいのです。お父さん、お母さんがいなくても、子どもたちが自ら正しく生きられる力はどこから来るのでしょうか？ それはお父さんお母さん達が見せる信仰の生活から来ます。お父さん、お母さん達は、子ども達が幸せに生きるために、祈る姿を見せ、イエス様・神さまが私たちがどのように愛されているかを教えなければなりません。子ども達の信仰の教育のために、お父さん、お母さん達はどのくらい努力をしましたか？ 生まれたら洗礼を授かるように、次に初聖体を受けるように、もっと大きくなったら堅信式を授かるようにしますね。それで終わりですか？ 教会の教えは、何よりもまず、お父さん、お母さんたちが教えなければなりません。なぜ教会がこの子ども達のために時間をかけ、いろいろな犠牲を払っても教えようとしているのでしょうか。それは、神さま・イエス様が愛していることを、この子どもたちに分らせたいためです。お金をもうける方法は教えなくてもよいのです。何よりもこの人生を正しく生きる力、すなわち信仰を教えてください。今日のようなお泊まり会やキャンプ、復活祭のお祭り、いろいろな行事には、全部子どもたちを連れてくるけれど、一番大切な日曜日のミサに子ども達を連れてこないお父さん、お母さんがたくさんいます。日曜日のミサに子どもたちが与るためには、お父さん、お母さん達は、全てのことを諦めて、何よりも優先的に子ども達のために動かなければなりません。仕事があって、教会に来る時間がありません、とおっしゃるかもしれませんが。しかし時間がないからしないのでは、愛とは言えません。「命と同じくらい、量れないくらい、限りなく愛しています。」と言いながら、一番大事な物を子ども達のためにあげることが出来なければ、お父さんお母さん達はみんな嘘つきです。

日本には、きれいな話があります。「子どもが魚をほしがったら、魚を買ってあげるのではなくて、魚を獲る方法を教えなさい。」という昔からの言い伝えです。魚を獲る方法については、イエス様が教えます。

今は月に2回だけ子どものミサをしているのですが、未来の教会のことを考えると毎週土曜日に子どものミサをしたほうがよいのか、今考えているところです。

今日の私の話を同じ言葉の人々に全部伝えてください。おっしゃったとおり、子ども達のために命を捨ててください。子どもたちには、それが分ります。教会の先生もシスターも私もこの子ども達のために心をこめて頑張ります。

ありがとうございました。